

道の駅への期待

都市と農村の対等で互酬的な双方向的関係を目指すグリーン・ツーリズム。日本で政策が開始して四半世紀がたち、新たな可能性が見えてきた。そのキーワードは「農泊」（農村民泊）。豊かな農村の魅力を感じずる滞在型の旅行の展開である。

その背景に政府の強力なインバウンド支援政策がある。今後、全国500地区で農泊の事業が展開され、外国人旅行者を地方に誘致し、地域の活性化につなげることが期待される。

英国の田園地域の魅力に取りつかれて30年。英国人の多くは日本を「極東の国」として遠い存在としてとらえ、日本の文化や日本人の価値観への認識は高くない。そうした欧米をはじめとする諸外国からの旅行者を、東京や京都、富士山への「ゴールデンルート」以外の地域への誘致に関する知恵が問われる。

今年2月には一般社団法人日本ファームステイ協会が設立され、筆者も品質評価支援研究所

「未知の世界」への誘いを！

東洋大学の学生と調査活動する青木辰司教授（中央）



長として、確かな農泊の普及に努める予定である。

司馬遼太郎は熊本県人吉地方を、「日本で最も豊かな隠れ里」と称した。

道の駅は、こうした「未知の世界」への道標としての意義を有する。奥深い日本の地方文化、その文化を育みつな

いできた人々との交流を重ね、心と心の交流を深める。そうした人と地域をつなぐ役目こそ、道の駅の大きな価値といえる。

確かな情報発信によって、感動交流が創造される公共施設としての意義を、多くの道の駅で体現していただくことを期待したい。

◇ 日本ファームステイ協会

日本の地方を元気にしようとする全国の関係組織・団体の力を結集し、農林水産省の掲げる「農泊」および「ファームステイ」を営む事業者の支援を通して、旅行者が繰り返し訪れたくなる地域の魅力を創り出し、その品質向上・維持・情報発信によって、国際水準に合致した「Country-side Stay 市場」を確立することで、日本国内における農山漁村の所得向上、地域の活性化をめざします。（協会ホームページより）